

令和二年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程（追検査）

Ⅱ 国 語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は問五までであり、1ページから14ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、記入またはマークしなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、その番号の○の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目（例：

--

）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の1〜4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代仮名遣いで書きなさい。

- 1 猛烈な寒波に見舞われた。
- 2 成長して服が窮屈になった。
- 3 巧妙な細工を施す。
- 4 菜種から油を搾る。

(イ) 次のa〜dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1〜4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 彼の言葉にはヒニクが込められている。
- 1 話がヒヤクしないように注意する。
- 2 ヒフが乾燥する。
- 3 断固としてキヨヒする。
- 4 道に迷い時間をロウヒする。

b 果物の甘いホウコウが漂う。

- 1 テッコウを製造する。
- 2 彼のコウセキが認められた。
- 3 コウソウを使った料理を食べる。
- 4 コウサを水で洗いがす。

c 乾燥しているのでカサイに注意する。

- 1 セイカをとます。
- 2 昨年に続いて今年もレイカだった。
- 3 カハンで釣りをする。
- 4 カビンの水を替える。

d 北国の寒さはキビしい。

- 1 土屋はニクガンで見える惑星だ。
- 2 ケツカンが収縮する。
- 3 演奏中の私語はケンキンだ。
- 4 宝石をケンマする。

(ウ) 次の例文中の——線をつけた「の」と同じ意味で用いられている「の」を含む文を、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 私の話すことをよく聞いてください。

- 1 走るのが好きだ。
- 2 兄の作った料理を食べる。
- 3 採用されたのは彼の意見だ。
- 4 探したのを見つからない。

(エ) 次の短歌を説明したものとして最も適するものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

蔓伸びて触手むなしく空中におどれる葡萄わが日々の雨季

高安 国世

- 1 雨の音しか聞こえない静けさの中で、葡萄の蔓が少しずつではあるものの懸命に伸びていこうとしているいじらしさを、「蔓伸びて」という語句で鮮やかに描いている。
- 2 雨が降りしきる日に葡萄の収穫に行つたものの、蔓が空高く伸びていたために手を伸ばしても葡萄を取れなかったさまを、「むなしく」という語句で感傷的に描いている。
- 3 雨が毎日のように降り続けている中でも、葡萄の蔓が勢よく成長しているたくましさや、「おどれる」によって葡萄の蔓を擬人化することで生き生きと描いている。
- 4 雨の降る時期に、葡萄の蔓が何かをつかもうとしてつかめないように見えるさまを、「わが日々の雨季」によって自分の晴れない心と重ねることで印象的に描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「予(私)」と「学応法師」は、「上人」という優れた老僧の家を訪れ、仏教の教えを聞いて帰ろうとしていた。

上人のたまひけるは、「幸い旧里より今日しも小豆を送るものあり。粥として振る舞ふべし。」とどめ

たまひぬれば、またしばらく清話に時を移しけるに、上人つい立ちて、棚の辺に塗りたる新しき箸のあり

けるを持ちて、ややしばらく独り言にのたまひけるは、「無始の慣習なる盗人かな。」とのたまひて、

目を塞ぎ涙ぐみたまひけるを、いかなる所以ありとも知らず見居けるに、学応法師あまりに不審に思はれ、

「何故にか。」と尋ね問はれるに、上人箸うち捨てて、さめざめと泣きてのたまひけるは、「今宵しも新

しき箸のなければ、これをこそおのおのへも与へんとて取り出だしけるが、また却つて思へらく、この

箸は有馬の名産の桑箸なりとて昨日人の与へけるが、わが平日受用の箸にすべし、あたら箸を人の用ひて

はいかが、と思ひぬる一念の兆しこそ極めてあさましき念慮の起こりにしことぞや。いまだ彼我の念の止

まざることは何事ぞ。その上、出る息の入るを待たざる身にて、わが平生の受用の箸にすべしとは、これ

また何事ぞや。即今の一念のところにおおきに実我実法の常見、幾重々か兆し起こる。盗人わが心室に乱

れ入りて法財を奪ひぬることの悔しさよ。」とてまたさめざめと発露の涙を落とされけり。老僧のしきり

に打ちしはぶきたる声にて、わななきくどかれぬる気色、道心色にあらはれ、至誠人を感じしめぬ。学応

法師も諸共に感心の涙を落とされけるが、これより学応は出世の希望を止めて、永く捨世の人となれり。

予がごときいかにつれなき身にも、心澄の夕べ、夢覚の暁には、このときの有り様の身を終ふるまで思

ひ出だされ、今もそぞろに苔の袂をぬらしぬるにぞ侍る。

〔新選発心伝〕から。

(注) 清話＝世俗を離れた高尚な話。

有馬＝現在の兵庫県の地名。

彼我＝相手と自分。

実我実法の常見＝世界や全ての存在は永遠不変の実在であり、死後も自我は滅びることなく永

遠に存続するという考え。

法財＝仏の真理の教えという財産。

発露＝気持ちなどが自然に外に表れること。

苔＝ここでは僧などが着る衣服。

(ア) 線1 「学応法師あまりに不審に思はれ」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「学応法師」は、独り言をもらして涙を浮かべる「上人」の姿を見て、どのような理由があるかわからず不思議に思っているということ。

2 「学応法師」は、勢いよく立ち上がった大声で泣き始めた「上人」の姿を見て、あまりに急な出来事だったので驚いているということ。

3 「学応法師」は、うつむいたまま涙を流している「上人」の姿を見て、このまま声をかけずに見守り続けるべきか迷っているということ。

4 「学応法師」は、持っていた箸を泣きながら放り投げた「上人」の姿を見て、わけがわからない言動に疑問を感じているということ。

(イ) 線2 「極めてあさましき念慮の起こりにしことぞや」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 箸を与えようとしたときに、一度でも使用すれば価値が下がるという思いや、与えてしまうのはもったいないという思いが起こったということ。

2 箸を与えようとしたときに、自分が日常的に使おうという思いとともに、他人にも一度は使ってもらいたいという思いも起こったということ。

3 箸を与えようとしたときに、価値がある桑箸を自分のものにしたという思いや、他人には使わせたくないという思いが起こったということ。

4 箸を与えようとしたときに、高価な桑箸を喜んでほしいという思いとともに、もてなしたことを褒められたいという思いも起こったということ。

(ウ) 線3 「学応法師も諸共に感心の涙を落とされける」とあるが、「学応法師」が泣いた理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「上人」が盗人の罪を許している様子を見て、人間としての器の大きさを感ずることができたから。

2 「上人」が夕食の準備をしている様子を見て、他者を思いやる気持ちを感じることができたから。

3 「上人」が自らのあやまちを認めて改善しようとする姿を見て、向上心を感じることができたから。

4 「上人」が自分の考えをありのままに話している姿を見て、誠実な人柄を感じることができたから。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「学応法師」は、何事もひとりで抱え込む器用な「上人」の生き方に影響されて人との関わりを絶ち、修行に励んで仏道を修めることを目指した。

2 「学応法師」は、仏道を修めることができている自分と向き合う「上人」の姿に感動して高い地位につくことを望まなくなり、俗世から離れた。

3 「学応法師」は、過去のあやまちを償うため他人に全てを分け与えようとする「上人」の生き方を知って自身の行いを反省し、出世を望むことをやめた。

4 「学応法師」は、失敗のたびに涙を流しながらも仏道を修めようと懸命に努力する「上人」の姿に感銘を受けて出家し、昼夜を問わず修行に専念した。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

明治末期、「山中」が重役を務める山中商会で働いていた「林愛作」は、帝国ホテルを設立した「洪沢栄一」からホテル支配人の後任を打診される。一度は断った「愛作」だが、「洪沢」とともにホテル設立に携わった「大倉喜八郎」から話がしたいと言われ、「山中」とホテルを訪れる。「大倉」からも支配人になることを打診され、返事を保留した「愛作」は、翌朝「山中」と食堂に行った。

案内されてテーブルに着くと、華やかな振袖に白いエプロン姿のウェイトレスが、ポットを持って近づいてきた。

「ティー、オア、コーヒー。」

愛作たちを外国人と間違えているらしい。発音は悪くないものの、にこりともしない。美人なのに、まるで愛想がなかった。

愛作はコーヒーを、山中は紅茶を頼み、それぞれのカップに注がれた。注ぎ方が乱暴で、ソーサーに少しはれたが、悪びれる様子もなく立ち去っていく。

帝国ホテルに泊まるのは初めてではない。だが以前は、こんなことはなかったような気がして、愛作は首を傾げた。それとも支配人の話があったために、急に些細なことまで気になり始めたのかもしれない。

周囲では何組かの西洋人が朝食を摂っていたが、ひとりの紳士がウェイトレスを手招きして、顔をしかめて白いナフキンを示し、小声で何か言っている。ウェイトレスはナフキンを受け取り、新しいものと取り替えた。しみでもついていたらしい。

別の西洋人が食事を終えて席を立ち、食堂から出ていこうとした。するとウェイトレスが追いかけて、ちよつとした押し問答になった。どうやらテーブルに置いたチップを、返そうとしているらしかった。

日本のガイドブックには「チップ不要」と書かれている。だが習慣で置いていく者は少なくない。それを押し問答までして返すのは、愛作にはやりすぎに思えた。

フロントデスクの前を通りかかると、また別の客が声高に文句を言っていた。

「バスルームの湯が出ない。蛇口をひねっても水しか出ないぞ。」

しかしフロントデスクでは、ほかに風呂つきの部屋は空いていないと、首を横に振るばかりだ。山中がささやいた。

「赤字が出るのも道理ですな。」

そして愛作の背中を軽くたたいた。

「まあ、とにかく断つたらよろしおま。こんな押しつけられたら、たまりまへんがな。」

階段を昇りかけた時、フロントデスクの係が追いかけてきた。

「恐れ入ります。当ホテルの洪沢が、お目にかかりたいと申しております。」

洪沢といえば洪沢栄一に違いなかった。山中が驚いて聞き返した。

「こんな朝早くから来ておいでですか。」

「はい。応接室で、お待ちしています。」

とうとう元会長の洪沢が直々に出てきたのかと、かなり警戒しつつ、山中とふたりで応接室におもむいた。応接室の扉を開けると、洪沢は、ゆっくり椅子から立ち上がり、笑顔で迎えた。

実業界の重鎮とは思えないほど、小柄で好々爺じみていた。椅子を勧めて言う。

「昨日、大倉さんから聞きましたよ。とてもよさそうな方で、ぜひ来てもらいたいよ。」

山中が謙遜するふりをして釘を差した。

「いえいえ、こない立派なホテルの支配人は、とても務まりまへん。」

すると洪沢は穏やかな口調で話し始めた。

「いろいろな文化を持つ国から、お客が集まるホテルですから、骨の折れる仕事です。でも満足して帰ってもらえれば、世界中に親日家を増やせますし、その逆もあります。日本という国のために、とても大事な仕事ですし、誰かがやらなければなりません。もし林さんに引き受けてもらえれば、とてもありがたいと思つています。」

押しの強い大倉喜八郎とは、対照的な態度だった。

「大倉さんは、いつまで考えてもかまわないと申したでしょうが、山中さんも忙しいでしょうし、明日、私は大倉さんと一緒に来ますので、返事を聞かせてください。」

洪沢自身、忙しらしく、話を切り上げると玄関に向かった。そして客待ちしていた人力車に乗り込み、愛作に声をかけた。

「いい返事を待っていますよ。」

走り去る人力車を見送りながら、山中がつぶやいた。

2 「大倉はんが剛なら、洪沢はんは柔やな。なかなか手強おますな。」

それから山中も人力車を頼んで、東京での仕入先まわりに出かけた。

ひとり残った愛作は、日比谷界隈を散策し、午後にはホテルに戻つて、ひとりで談話室や喫煙室を見てまわつた。

大広間の豪華さには、さすがに息を呑む。ビクトリア調の外観にふさわしい内装で、絨毯が敷き詰められ、四隅には大理石の円柱がそびえ、シャンデリアが燦然と輝く。壁や天井際にあしらわれた装飾も本格的だった。

巨大な天井画は、ヨーロッパから画家を呼んで描かせたに違いなかった。明治二十三年の創業当時、これだけの大作を手がけられる日本人はいない。

愛作が大広間にたたずんでいると、声をかけてきた西洋人がいた。

「私はハンス・モーゼル。スイス人で、このホテルの支配人です。」

愛作よく握手を求められて、愛作は気軽に応じ、そのまま立ち話になった。

「あなたは、このホテルの支配人になれと勧められているのでしょうか。——いきなり切り込んで来られたが、隠す必要もないと思つて肯定した。」

「その通りです。」

「あなたのために忠告しますが、やめた方がいい。このホテルは誰がやってもうまくいきません。問題が山積みなのです。経営陣は頭が固いし、スタッフは無能だし、設備は古いし。——」

次から次へと不満が出てくる。

「まあ、できるだけ私が改善するつもりですが、今までも何かしようとする、経営陣が口出しして何も進まないのです。——」

愛作は聞いていて、しだいに不愉快になってきた。こんな投げやりな態度では、大倉が解任したくなるのも当然だった。

ひとりで部屋に戻つてから、壁に掛けられた上村松園の美人画を見つめた。こういった日本人の感性や技量を、西洋人に褒められると、日本人として嬉しい。でもモーゼルのようにけなされるのは、自分のホテルでもないのに、いたく腹立たしかった。

今朝の洪沢の言葉を思い出す。

「満足して帰ってもらえれば、世界中に親日家を増やせますし、その逆もあります。日本という国のために、とても大事な仕事です。」

ナフキンが汚れていたり、バスルームの湯が出なかつたりしたら、客は日本が劣った国だと思ひ込んで帰つてしまう。

大倉の言葉もよみがえる。

「あの破風屋根では駄目だ。日本の美学を伝えられない。」

3 ライトの感性を通して、日本の美学を世界に伝えたい。そんな思いが高まる。耳の奥で、もういちど洪沢の声が聞こえた。

「誰かがやらなければなりません。」

肘掛け椅子に腰かけて、どうすべきか考えた。海外生活が長いからこそ、日本人であることを強く意識し、日本を愛する気持ちも人一倍強い。だが迷いは消えず、思考は堂々めぐりを繰り返した。

ドアがノックされて、ふとわれに返ると、もう窓の外は真つ暗だった。ドアが開き、山中が驚いた声で聞いた。

「どないしたんでつか。電気も点けへんで。」

そのまま電灯のスイッチをひねる。愛作は眩しさに目を細めながら、山中の顔を見上げた。

その時、なぜか心が定まった。山中も何か感じ取つたらしく、その場に立ちすくんでいる。愛作は椅子から立ち上がつて、迷つた末の決意を口にした。

「長らく、お世話になりました。」

4 山中が眉をひそめて聞き返す。

「引き受けまんのか。」

うなずくと、いきなり顔をそむけた。愛作は心が痛んだが、深々と頭を下げた。

「大学を卒業しても、行き場のなかつた僕を拾つて、いろいろ教えてくださつて、本当に感謝しています。」

「何の恩返しもしできないまま、こんな形で辞めるのは、心苦しいのですが。」

すると意外にも、さばさばした口調が返つてきた。

「いや、かましまへん。うちの店のためには、充分に働いてもらいましたよつて。」

ひとつ肩で息をついてから続けた。

「ほんまはな、最初から、そう悪い話やないとは思つてましたんや。けど、うちの大事な社員やし、手放しとない気もして。」

5 意外なことに言葉が潤み始めた。

「でも、きつと、あんさんは引き受けはるやろて、わかつてました。」

小さく涙をすすり、こちらに向き直ると、目のまわりを赤くしたまま笑顔を作つた。

「うちで育つた人が日本のために働いて、こんな誇らしいことはあらしまへん。気張つておくれやす。」

「そこまで惜しんでくれるのかと思うと、愛作の胸も熱くなつた。」

（植松 三十里「帝国ホテル建築物」から。一部表記を改めたところがある。）

(注) 好々爺Ⅱやさしくて人のよい老人。

日比谷Ⅱ現在の東京都の地名。

ビクトリア調Ⅱイギリスのビクトリア女王の時代に流行した建築の様式。

上村松園Ⅱ日本の画家(一八七五～一九四九)。

破風Ⅱ日本建築で、屋根の端についている装飾の板。

ライトⅡアメリカの近代建築家(一八六七～一九五九)。

(ア) —線1「愛作は首を傾げた。」とあるが、そのときの「愛作」の気持ちを説明したものとして最も

適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 帝国ホテルに泊まるたびに接客態度が悪くなってきたと感じ、改善の進まない理由がわからず疑問に感じている。

2 支配人への打診をきっかけに些細なことまで気になるようになってしまい、接客に対する感じ方の変化に困惑している。

3 細部まで行き届いていた接客がいい加減なものになったことで、どのように改善していけばよいかを思索している。

4 かつて宿泊した際には接客について不満を感じた記憶がなく、従業員の素直な振る舞いを見て違和感を覚えている。

(イ) —線2「大倉はんが剛なら、洪沢はんは柔やな。」とあるが、そのように言ったときの「山中」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「洪沢」は押し強い「大倉」とは違って、柔らかい口調でありながらも自分の意思を明確に伝えてくる人物だと感じたので、自分たちの主張を通すことが難しい相手だと思っている。

2 「洪沢」は押し強い「大倉」とは違って、自分の考えだけを伝えて足早に立ち去る落ち着きがない人物だと感じたので、時間をかけて丁寧交渉することができない印象を持っている。

3 「洪沢」は押し強い「大倉」とは違って、柔らかな物腰で自分の意見を伝えるだけではなく相手の意見に耳を傾けることのできる人物だと感じたので、度量が大きい印象を持っている。

4 「洪沢」は押し強い「大倉」とは違って、自分の本音を表に出すことなく相手の様子をうかがいながら会話を進めてくる人物だと感じたので、真意がはかりかねる相手だと思っている。

(ウ) —線3「思考は堂々めぐりを繰り返した。」とあるが、そのときの「愛作」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「大倉」と「洪沢」の言葉に共感して、経営を立て直すために支配人の話を引き受けたいと思っているが、残される「山中」が気の毒で決断できないでいる。

2 「大倉」と「洪沢」の言葉が心に残り、世界の人々に日本のよさを広めたいという思いが強まっているが、「山中」への恩義もあるので決めきれないでいる。

3 「大倉」と「洪沢」の依頼に感動して、帝国ホテルが世界に進出するために尽力したいと思っているが、責任の重い仕事を成し遂げる自信がなくて悩んでいる。

4 「大倉」と「洪沢」の依頼に心を打たれ、日本の文化を広めたいと思っているが、帝国ホテルの状況を聞いたことで働く意欲を失い支配人になるか迷っている。

(エ) —線4「引き受けまんのか。」とあるが、ここでの「山中」の気持ちをふまえて、この部分を朗読

するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「愛作」を手放すことは残念だが、「愛作」が会社を辞めたことを気にしないで支配人として働いていけるようにするため、大切な仲間を失う悲しみを隠すように読む。

2 「愛作」を自分の後継者にしようと大切に育ててきたものの、「愛作」に自分の思いは伝わっておらず、裏切られてしまったことによる怒りをあらわにするように読む。

3 「愛作」が支配人の話を承諾するかもしれないと思っていたものの、手放したくない気持ちもあり、実際に「愛作」の決断を聞いたことによる憂いを込めるように読む。

4 「愛作」が決断しないことにいらだちを覚えていたが、退職を決意したと知って喜ぶとともに、新たな道へ踏み出すことに対する「愛作」の覚悟を確認するように読む。

(オ) —線5「意外なことに言葉が潤み始めた。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「愛作」は退職すると伝えたことで「山中」の気分を損ねたと思っていたが、温かく受け入れてくれただけではなく感情を抑えきれない「山中」を見て、思いがけない気持ちでいる。

2 「愛作」は会社を辞めるつもりだと話したことで「山中」から責められると覚悟していたが、想定外のことで受け入れられないと泣き出した「山中」を見て、戸惑いを覚えている。

3 「愛作」は支配人になることを認めてもらおうと「山中」に頭を下げたところ、困惑した表情を崩さないものの激励の言葉をかけてくれる「山中」を見て、ありがたく感じている。

4 「愛作」は支配人になる決心がついたと意を決して「山中」に伝えたところ、予想外の展開に驚くとともに慌てて引き留めようとする「山中」を見て、申し訳ないと思っている。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 帝国ホテルで日本のために尽力していこうと考えている「愛作」を、「山中」が懸命に引き留めようとするさまを、ふたりの思惑を交差させることによって描いている。

2 「山中」の強い後押しを受けて、「愛作」がためらいながらも支配人の話を承諾する決意を固めていくさまを、ふたりの固いきずなを表現することによって描いている。

3 世話になった「山中」の元から離れて支配人を引き受けられることを、「愛作」が葛藤しながらも決意するさまを、登場人物の印象的な言葉の回想を交えて描いている。

4 支配人になる決断ができずにいた「愛作」が、「山中」とともに悩みながら支配人として働く覚悟を決めるさまを、帝国ホテルに関わる人の視点を通して描いている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

近代より前とそれ以降では美的経験の質が大きく変化している。古代のプラトン^(注)であれば美のイデア、中世であれば神の知性によって認識された美そのもの——かつてはそうしたものによって、美が何であるのかということが人間の経験とは無関係に、しかも経験に先立って決定されていた。美の究極的な本質は普遍的でア・プリオリなものと見なされていたのである。それに対して、美の根柢が芸術家の内面へと移ってきた近代にあつては、芸術家も所詮は一人の人間にすぎないのであつて、その精神的直観によって眺め取られたビジョン^(注)も、それがいかに優れたものであろうと、個別的・経験的なものである可能性を脱却しえない。要するに、美の本質を普遍的でア・プリオリなものに見なすことはできなくなったのである。さてここからが問題となるのだが、美的経験が普遍的ではないことは認めるとして、その経験はすべて主観的な経験にすぎないと断ずることができるだろうか。たしかに、何を美しいと感じるのか、どのような作品を素晴らしいと感じるのかについては、「十人十色」、「蓼食う虫も好き好き」という側面があるかもしれない。しかし、みなさん自身の経験を思い返してもらいたい。ある作品を美しいと感じたとき、所詮これは私の主観的感情にすぎないと判断しているだろうか。A、私以外の誰かもこの作品を美しいと感じるはずだと心のどこかで思っていないだろうか。あるいは、ある楽曲を素晴らしいと感じるとき、その素晴らしさを他の誰かにも伝えたい、他の誰かとも共有できるはずだと考えてはいないだろうか。いやそれどころか、人間である以上誰しもがこの曲を聴くべきだと強く思ったことはないだろうか。もし本当に、美の経験が完全に主観的なものにすぎないのであれば、こうした思いを抱くことはないはずである。各々が自分好みの作品にどっぷり浸かっていたらよいだけの話だ。しかし、どうもそれだけでは話が済まないように思われる。この作品は美しい、素晴らしいという美に関する判断は、個別的・主観的な感情の発露だけに還元することはできないのではないだろうか。

美的経験に基づく美的判断は普遍的・客観的なものではない。美についての普遍的な根柢・法則(美のイデアや神の知性)はもはや存在しないからである。さりとて、美的判断を個別的・主観的なものに回収し尽くすこともできない。作品を味わうなかで、私たちは「他の誰かもこの作品を美しい、素晴らしいと感じるはずだ。」と知らず知らずのうちに想定しているからである。美的判断はたんに普遍的・客観的でもなければ、たんに個別的・主観的でもない。

一八世紀後半の哲学者イマヌエル・カントは美的判断のこうした特性に着目し、それを「主観的普遍妥当性」と名指している。美的判断はたしかに一人ひとりの個別的な感性から切り離すことはできず、その意味では「主観的」である。B、美的判断を下すときには、「おそらく他の人びともこの作品を美しいと感じるはずだ、素晴らしいと思うにちがいない」という仕方、自らの思考を「拡張することを行なっている。その意味では美的判断は「普遍的」でもある。それゆえ、カントは美的判断を「主観的普遍妥当性」と性格づける。

そしてカントによると、この主観的普遍妥当性の根柢で働いているのは、「自らの判断をいわば人間理性の総体と照らし合わせるために」、「他のあらゆる人の立場に自らを置き換える」能力である。これによって「普遍的な立場(自らを他の人びとの立場へと置き換えること)によってのみこの普遍的な立場は定められる」から自ら自身の判断を反省する」ことができ、「拡大された考え方」を持つことができるようになる。

こうした思考の拡張を行う能力のことをカントはアイン・ゲマインシャフトリッヒャー・ジンと呼んでいる。このドイツ語はさまざまに訳しうるだろうが、そこに含まれている「共同体」という意味を前面に

出して、この語をコミュニティ(共同体)感覚と訳し、独自の解釈を展開したのが二〇世紀の哲学者ハンナ・アーレントである。

美に関する判断の主観的普遍妥当性は、他者の立場に身を置いてみるというコミュニティ感覚に基づいている。「コミュニティ感覚が人のメンタリティを拡張する」ことを通じて、美的判断は主観的普遍妥当性を持つことになる。すでに確認したように、作品を鑑賞して美を味わう際には、客観的・普遍的な根柢や法則を前提にすることはできない。そのようななかで、それでも何とかしてこの作品の美しさ、素晴らしさを共有できないか、いやできるはずだという思いが生じてくる。カントとアーレントに即するならば、その思いの根柢はコミュニティ感覚以外の何ものでもない。逆に言えば、作品を堪能する経験は経験者の奥底に眠るコミュニティ感覚を呼び覚まし、それを再活性化するのである。だからこそアーレントは、カントによる美的判断論がそのまま政治哲学の理論になつていとも解釈する。

以上、カントとアーレントに依拠して、美的経験およびそれに基づく美的判断が主観的普遍妥当性を有すること、そしてその根柢にはコミュニティ感覚が横たわっていることを見てきた。昨今の芸術祭流行りもこの流れに倅差していると考えられる。世界、国、地域、家族、個人、それぞれのレベルで普遍的な共通理解が崩壊し、この先どうなるか分からないという時代にあつて、それでもどうにかして互いに共有できるルールを見出し、コミュニティを立ち上げていかなければならない。そうなつたときに白羽の矢が立つのが芸術・アートであるのは、カントとアーレントの議論をおさえた私たちからしたら自明の理であろう。したがってここでは次のような視点を取り出すことができる。美を味わう経験は人びとのコミュニティ感覚を呼び覚まし、それを再び賦活することができるがゆえに、「地域活性化」や「社会的課題の解決」に役立つとみなされ、そうしたテーマを掲げる芸術祭やアート・プロジェクトが今日の日本では増殖しているのである。

芸術祭やアート・プロジェクトがこれほどまでに増えているのはなぜか。おそらく「コミュニティ感覚の覚醒と再活性化」という美的経験の効能を期待して、日本各地で芸術祭やアート・プロジェクトやらが開催されているのではないだろうか。思想的に見れば、カントとアーレントの延長に昨今の芸術祭流行りは位置づけられる。しかし、その試みが芸術への「神頼み」になつていないか、ただの「アーティスト詣で」に陥つていないかについては、個別的芸術祭、アート・プロジェクトを対象とした具体的な検証が必要になってくるだろう。最後に一点だけ注記しておきたい。カントからアーレントへの流れに即して芸術を捉えることは一面的な見方に留まるおそれがあるという点である。たしかに、美的経験とそれに基づく美的判断にはコミュニティの形成につながる側面が存する。「私だけではなく他の人も、美しい、素晴らしいと思うはずだ。」というのは誰しも身に覚えのある感覚であろう。だが他方で、「この作品の美しさ、素晴らしさは私にしか分からないのではないか」、「全人類が減びてもこの作品さえ残ればよいのではないか。」という気持ちも、みなさんどこかで感じたことがあるにちがいない。プラトンが美の経験を狂気の経験とみなしたり、詩人を国家から追放することを唱えたりしたのも、美的経験が引き起こすこのようなクリティカル(批判的かつ危機的)な性格に気づいていたからであろう。ヒメロスに酔いしれて沸き立った魂はコミュニティを破壊するかもしれないのである。カントからアーレントへの系譜のなかでは、美的経験のこうした破壊的性格が見過ごされてしまう可能性がある。芸術祭やアート・プロジェクトを立ち上げる人びとがそのことにどれだけ意識的なのかは分からないが、カント的・アーレント的な美の側面ばかりに目を奪われていると、いつの日にか芸術からしつぽ返しを食らうなんていうこともあるのではないだろうか。

(阿部 将伸)「いま芸術に何が期待されているのか」から。一部表記を改めたところがある。

(注) プラトン II 紀元前四世紀頃の古代ギリシアの哲学者。

イデア II 事物の本質。原型。観念。

ア・プリアオリ II 経験や事実先に立つ条件。

ビジョン II 想像して心の中に描いた情景。

イマヌエル・カント II ドイツの哲学者(一七二四―一八〇四)。

ハンナ・アーレント II アメリカの哲学者(一九〇六―一九七五)。

メンタリテイ II 精神の作用。

賦活 II 機能を活発にすること。

ヒュメロス II ここでは、愛せずにはいられない魅力のこと。

(ア) 本文中の **A**・**B** に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 A または B それで 2 A もちろん B だから

3 A むしろ B しかし 4 A たとえば B そして

(イ) 線1「近代より前とそれ以降では美的経験の質が大きく変化している。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 近代より前の時代には、美は普遍的なものであると認識されていたが、近代以降は個人の経験や感じ方によるものと考えられるようになったということ。

2 近代より前の時代には、神により絶対的な美というものが作り出されていたが、近代以降は人間も美を作り出そうと挑戦するようになったということ。

3 近代より前の時代には、人びとの総意をもとに美は決定されていたが、近代以降は権威のある人によつて一方的に決められるものになったということ。

4 近代より前の時代には、美というものを個人が自由に判断することができていたが、近代以降は客観的な事実をもとに判断するものになったということ。

(ウ) 線2「この作品は美しい、素晴らしいという美に関する判断は、個別的・主観的な感情の発露だけに還元することはできない」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 美的判断には、個人の感じ方だけではなく、神の知性の影響を受けることも想定されているから。

2 美的判断は、個々の好みだけによるものではなく、客観的であることも重視されているから。

3 美的判断には、個人の感性だけによるものではなく、無意識に他者の共感も想定されているから。

4 美的判断は、個々の主観的な経験だけではなく、普遍的な根拠や法則も重視されているから。

(エ) 線3「アーレントは、カントによる美的判断論がそのまま政治哲学の理論になっているとも解釈する。」とあるが、それを説明した次の文中の **I**・**II** に入れる語句として最も適するものを、これより前の本文中から、**I** については五字で、**II** については四字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

アーレントは、カントによる美的判断論の根底にある、他者の立場から自身の判断を反省するという **I** を行う能力を呼び起こし **II** することが、政治哲学にもつながっていると捉えていると述べている。

(オ) 線4「昨今の芸術祭流行りもこの流れに倣差している」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 現代は共通の認識を持って先を見通しにくい時代であるので、美を味わうことを通して人びとが感覚を共有する場となること、芸術祭に対して期待されているということ。

2 現代は共同体のなかで個性を出すことが難しい時代であるので、美に触れることで個別的な感性を豊かにする場となること、芸術祭に対して求められているということ。

3 現代は容易に他者となりがり合える時代だからこそ、美に触れることを通して他者と共鳴する喜びを感じさせる場となること、芸術祭に対して期待されているということ。

4 現代は普遍的な視点が必要となる時代だからこそ、美を味わうことで人びとのなかに画一的な基準を作り出す場となること、芸術祭に対して求められているということ。

(カ) 線5「そうしたテーマを掲げる芸術祭やアート・プロジェクトが今日の日本では増殖している」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 芸術に社会が抱える課題を解決する効果があるのは明白だが、「神頼み」や「アーティスト詣で」の本質から離れないためには鑑賞以外の目的を持たせるべきではない。

2 社会が抱える課題は本来芸術とは全く関係のないものであり、「神頼み」や「アーティスト詣で」がさまざまな問題の解決のきっかけになると期待しても意味がない。

3 社会が抱える課題は芸術と密接に関係しているため、形だけの「神頼み」や「アーティスト詣で」とあると批判されたとしても解決に向けて努力し続けるべきである。

4 芸術には社会が抱える課題を解決する効果があると期待されているが、単なる「神頼み」や「アーティスト詣で」になつていないかについて十分な検討が必要である。

(キ) 線6「カントからアーレントへの流れに即して芸術を捉えることは一面的な見方に留まるおそれがある」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 カントやアーレントの考えに基づいた美的判断は、人びとに対して主観的な考え方をするように意識させるあまり、共同体が持つ役割を見失わせてしまうこともあるから。

2 カントやアーレントの考えに基づいた美的判断は、人びとに対して美的経験が持つ効果を注目させるあまり、破壊的な性質が内在していることに気づかせないこともあるから。

3 カントやアーレントの考えに基づいた美的判断は、人びとに対して他者と共有することを意識させるあまり、芸術が本来目指すべき方向性を見誤らせてしまうこともあるから。

4 カントやアーレントの考えに基づいた美的判断は、人びとに対して作品の美の側面を注目させるあまり、他者も美を感じるものだという前提を忘れさせてしまうこともあるから。

(ク) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 美的判断が持つ汎用性について、各地で開催されている芸術祭の問題点も挙げながら説明した上で、個人の経験に基づいて美を判断するべきであると論じている。

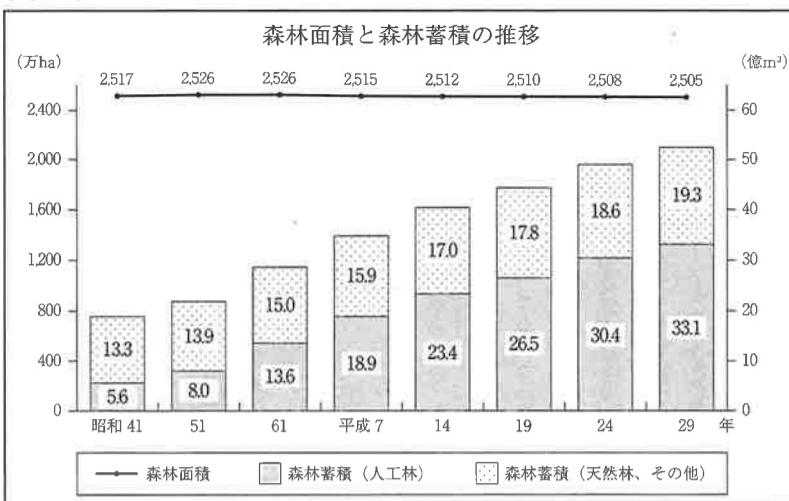
2 美的判断が持つ性質について、哲学者の考え方の違いにも触れながら説明した上で、他者と分かち合うためには普遍的な美を見出すことが望まれると論じている。

3 美的判断が持つ危険性について、現代社会で求められる美の味わい方も挙げながら説明した上で、客観的な視点を通して作品と向き合うべきであると論じている。

4 美的判断が持つ特性について、美的経験の捉え方の変容にも触れながら説明した上で、現代社会が抱える課題の解決につながることが期待されると論じている。

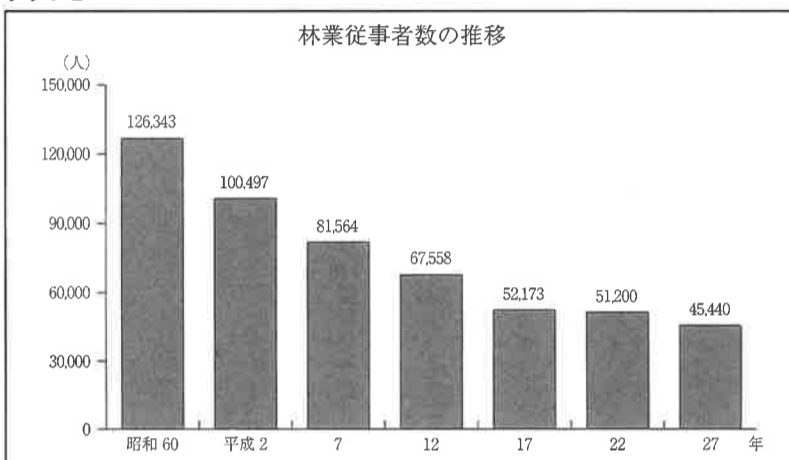
問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で森林資源と林業について調べ、発表に向けて話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、グラフ3と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ1



林野庁「森林資源の現況」より作成。

グラフ2



総務省「国勢調査」より作成。

Aさん 私たちはこれまで森林資源と林業について調べてきました。現在、日本の国土面積の約三分の二を森林が占めているそうです。

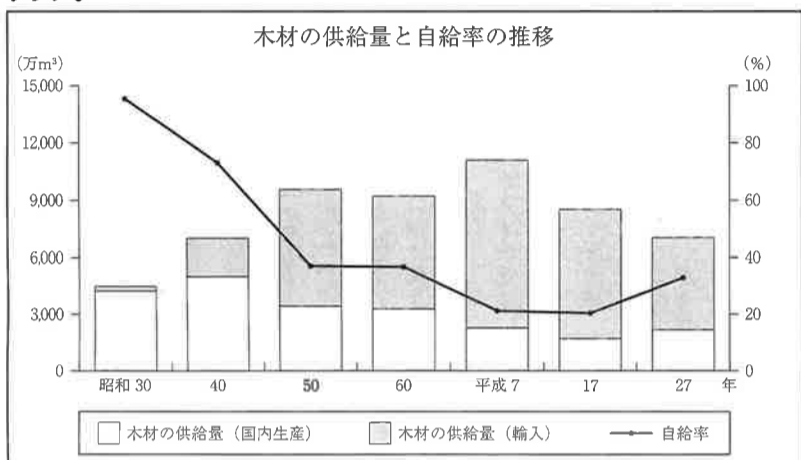
Bさん ここでグラフ1を見てください。森林面積と森林蓄積の推移を一つのグラフにまとめたものです。森林蓄積とは森林を構成する樹木の幹の体積のことです。また、人工林とは木材の生産目的のために植樹をして造った森林のことです。これを見ると、人工林の増加が著しいことがわかります。

Cさん なるほど。他には、森林面積に大きな変化はないものの、森林蓄積全体は増加していることがわかります。

Dさん つまり、一本一本の樹木が成長し続け、体積が増えているということですね。

Aさん そうですね。それでは、森林面積に大きな変化がないのに、樹木が成長して森林蓄積が増加した背景について考えてみましょう。

グラフ3



林野庁「木材需給表」より作成。

(問題)は、これで終わりです。

- Cさん グラフ2を見てください。林業従事者数の推移を表したのですが、昭和六十年には十二万人以上いた林業従事者が、平成二十七年には四万五千人程度になっています。
- Dさん 林業従事者には大きく分けて、植樹をする人、樹木を伐採する人、伐採した樹木を集める人などがいるそうです。そのような人々を確保して人工林を活用していくために、雇用を促す取り組みが行われて効果も出ていますが、まだ十分ではないようです。
- Cさん 林業従事者数の変化は、植樹や伐採が進むかどうかに関係すると思います。
- Aさん 森林蓄積が増加した背景にあるのは、林業従事者数の変化だけでしょうか。
- Bさん グラフ3を見てください。木材の供給量と自給率の推移を表したものです。木材の供給量は、国内生産によるものと、輸入によるものとに分類されます。木造住宅の新設住宅着工戸数などの影響もあり、木材の供給量は年によって増減が見られます。
- Dさん 木材の供給量のうち、輸入量に注目して昭和三十年から平成二十七年までの推移を見ると、大きな変化が読み取れますね。
- Cさん それは昭和三十年代に木材の輸入自由化が始まったことが影響していると考えられます。
- Bさん 輸入量の変化に伴い、自給率は昭和三十年と比べると低い状態が続いています。国内生産量も伸び悩んでおり、人工林などの樹木が十分に伐採されていないことがわかります。
- Dさん 平成二十一年に農林水産省が策定した「森林・林業再生プラン」では「自給率五十パーセント以上」を目指す姿勢として掲げられていますので、国内生産量を増加させることが求められているのですね。
- Aさん これまでの話を総合すると、グラフ2とグラフ3から読み取った内容から、森林面積に大きな変化がないのに、森林蓄積が増加した背景には、国内生産量の増加という状況があると考えられます。
- Bさん 森林蓄積が増加した背景には他に何かがあるのか、発表に向けて引き続き調べていきましょう。
- (ア) 本文中の国内生産量の増加に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。
- 昭和41年の森林蓄積において、「天然林、その他」は森林蓄積全体の二分の一以下である
 - 平成29年の森林蓄積において、「人工林」は森林蓄積全体の半分以上を占めている
 - 平成29年は昭和41年と比べ、森林蓄積全体に占める「人工林」の割合は減少している
 - 平成29年は昭和41年と比べ、森林蓄積全体に占める「天然林、その他」の割合は増加している
- 本文中の国内生産量の増加に適する「Aさん」のことを、次の①～④の条件を満たして書きなさい。
- 書き出しの「森林蓄積が増加した背景には、国内生産量の増加という状況がある」と考えられます。という語句につながる一文となるように書くこと。
 - 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。
 - グラフ2とグラフ3から読み取った具体的な内容に触れていること。
 - 「林業従事者数」「輸入量」「伐採」という三つの語句を、それぞれそのまま用いること。

受 検 番 号							氏 名
0	0	0		0	0	0	
1	1	1	1	1	1	1	
2	2	2	2	2	2	2	
3	3	3		3	3	3	
4	4	4		4	4	4	
5	5	5		5	5	5	
6	6	6		6	6	6	
7	7	7		7	7	7	
8	8	8		8	8	8	
9	9	9		9	9	9	

受検番号は左から書くこと。

問 一										
(エ)	(ウ)	(イ)				(ア)				
		d	c	b	a	4	3	2	1	
1	1	1	1	1	1					*解答欄は裏面にあります。 *解答欄は裏面にあります。 *解答欄は裏面にあります。 *解答欄は裏面にあります。
2	2	2	2	2	2					
3	3	3	3	3	3					
4	4	4	4	4	4					

各二点

各四点

問 五	
(イ)	(ア)
	1
	2
	3
	4

(ア)は四点、(イ)は六点

*解答欄は裏面にあります。

問 四							
(ク)	(キ)	(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
1	1	1	1		1	1	1
2	2	2	2		2	2	2
3	3	3	3		3	3	3
4	4	4	4		4	4	4

(ア)は二点、(エ)は両方できて四点、他は各四点

*解答欄は裏面にあります。

問 三					
(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4

各四点

注意事項

- HBまたはBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使用して、○の中を塗りつぶすこと。
- 答えを直すときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。
- 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はっきり書き入れること。
- 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしないこと。

良い例	悪い例		
	線	小さい	はみ出し
	丸囲み	レ点	うすい

